

広島県中山間地域の在り方に関する検討

—— 心理・社会・経済的要因の地域間比較からの考察 ——

M1265309 加藤 芳 朗

〔はじめに〕

地域づくりには内なる力（内発力）が必要不可欠であるが、『活力』『能力』『生きる力』など、人間の発展、或いは生活の質の向上に繋がる地域づくりには如何なる要因が必要か明らかではない。今回、中山間地域、都市周辺部、都市部における地域づくりの社会的、心理的要因の比較を行い、高校生に関しては、『生きる力』に何が必要なかを検討した。また、高校生、一般成人では、地域の発展に必要な地域の経済性、持続性、自立性に着目し、それらと社会・心理的要因との関連を検討した。

〔対象と方法〕

調査対象者は中山間地域、都市部、その中間的要素を持つ都市周辺部の公立普通科高校3年生（男子351人、女子475人）と一般成人（男性503人、女性752人）であった。

アンケートは2種類あり、1つは地域づくりに必要な社会的要因である『情報』『コミュニケーション』『文化』『地元志向』『感性』『社会インフラ』『その他』の7つの要因に関するものであった。もう一方は、心理的満足度をみるために、世界保健機構の生活の質を測定する国際的ツールである短縮版 WHOQOL26 を使用した。

高校生のデータ収集は、授業のホームルームを利用して、無記名、自記式にて行った。有効回答率は84.9%であった。一般成人の調査は地域の商工会議所、行政、企業、市福祉保健センター、居宅介護支援事業所、医療福祉施設に依頼して行った。回収率は71.7%であった。

〔結果〕

統計的分析から得られた主な結果を以下に示す。

- 1) 『家族機能』は『生きる力』と定義された『身体』『活力』『自己肯定』『安全性』に肯定的な影響を及ぼし、『生きる力』に重要な要因であった。『社会インフラ』は高校生の心理的満足度に否定的に働いていた。このことから、『生きる力』と利便性が同時に得られる社会インフラ整備、学校立地、企業のあり方や『生きる力』を育む社会連帯のあり方が重要であることが示唆された。
- 2) 青年期前期の女子の生活満足度は明らかに男子より評価が低く、カウンセラー機能が必要であることが示された。また、男性に比べ、女性は心理的満足度への感受性が高く、「公民館」の活動など『交流』『会話』が生活満足度に結びついており、『交流』の場をつくることが重要であると考えられた。
- 3) 三次市の人口が1,000人減少すれば、1人当りの経済損失は1977年における約109万円/1人当りと1996年における約146万円/1人の範囲で変動していた。自己回帰モデルによる三次市の人口が1,000人減少

した場合の工場出荷額減少額予測値は約2,300万円/1人であり、三次市歳入額の減少額予測値は約45万円/1人であった。

中山間地域においては高校生という能力、可能性を持つ人材が地元を離れることは地域経済の損失を意味する。

- 4) 一般成人モデルでは『地元志向』は心理的要因に否定的な影響を及ぼし、受動的、能動的な『地元志向』ではなく、両価的心理状態に基づくものと推察された。
- 5) 『文化』は一般成人の心理的要因に肯定的な影響を及ぼした。「誇り」「文化知名」は地域の持続性に関連する「地元将来」に正相関し、「誇り」は両価的『地元志向』を『愛着心』に変化させる働きがあるものと推察され、地域づくりには重要な要因であることがわかった。
- 6) 一般成人において、「世帯収入」単独では『活力』『安心』に肯定的な影響を及ぼし、世帯収入を用いた分析では「世帯収入」と文化・情報の組み合わせで『活力』『安心』のみならず、『能力』『余暇』にも肯定的な影響を及ぼしていた。
- 7) 『文化』『環境』は何れも持続性を意味する「地元将来」と正相関があり、持続性因子として重要であることが確認された。持続モデルでは『文化』は中山間地域で心理的要因にマイナス効果、都市部でプラス効果であった。一方、『環境』は都市周辺部、都市部でマイナス効果であった。何れにおいても地域の持続性には問題がみられた。
- 8) 自立性に関しては『個人の自立』→『地域の自立』→『社会参加』→『心理的要因への肯定的な影響』がみられるか否かを検証したところ、何れの地域も『社会参加』までは出来ているが、『社会参加』が人々の『活力』『能力』に繋がっていない。特に、中山間地域は『地域の自立』が『活力』に否定的に作用しており、人々の自己実現、利他心が主眼である成熟社会に向けて地域づくりを行っていく必要が示唆された。

〔まとめ〕

以上の結果より、中山間地域においては、高校生における『家族機能』と社会連帯のあり方が重要である。地域からの若者の流出は能力の流出でもあり、経済損失に直結する。能力発展を遂げた若者がUターンしやすいような環境を構築していくことが今後の課題である。また、一般成人においては、多方面に悪影響を及ぼしている両価的『地元志向』を愛着心へ変革するには地元に対する「誇り」が鍵となる。地域の持続性を維持するには環境保全だけでなく文化の継承が重要であり、地域の自立性には経済的自立と社会参加の両者が必要となつてこよう。